

ゆのはな

すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現
～Be true to Rehabilitation～

社会福祉法人 農協共済
別府リハビリテーションセンター

第06号
2017. 7.1
BRCだより

新体制の取り組み

回復期リハビリテーション部 部長 いとう みつこ 伊藤 美津子

4月より3ヶ月が過ぎ、新入職員の入職時の緊張した表情が優しい笑顔に変わり、患者さんに接する姿も微笑ましく、また、頼もしく感じているこの頃です。

さて、平成30年度は診療報酬と介護報酬の同時改定が行われ、今後の医療・介護施策において大きな節目になる年度となります。近年、地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築の推進など、医療と介護の連携強化が進められています。

回復期リハビリテーション病棟の目的は、「多くの医療専門職がチームを組んで集中したリハビリテーションを提供し、心身ともに回復した状態で自宅や社会に戻っていただく」ことです。

そのため、医療上の問題や生活・介護上の問題がある患者さん、一人暮らしであったり家族と同居されていても十分なケアを受けられない患者さんには、退院調整が必要になります。

当病棟では、入院早期から退院後の生活を見据え、多職種が連携し、支援しています。今年度は、リハビリテーション専門職の管理者や退院支援看護師を配置したことで、これまで以上に患者さんお一人お一人の状態に合わせたリハビリテーション・ケアの提供や退院支援に取り組むことができると考えています。

これからも、変化する社会のニーズに対応し、地域の皆さまが求める医療を提供し、また、地域の保健・福祉・介護の関係者の皆さまと連携を図ることで、利用者の皆さまから当施設を選んで良かったと思っていただけるような病院づくりに、スタッフ一同尽力してまいります。

今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

新着任医師のご紹介

別府リハビリテーションセンターのひと・人

回復期リハビリテーション部 医師 あべ まきこ 阿部 真希子

平成29年4月より、大分大学医学部附属病院から別府リハビリテーションセンターへ医師として赴任しました阿部真希子です。大分大学医学部附属病院では総合内科で働いており、内科の知識を診療に役立てられたらと思います。



現在の実家は福岡県へ移っているのですが、小学生、中学生の頃は、大分県の鶴崎で暮らしていました。緑の豊かな地域で、近所の子たちと毎日楽しく遊んでいたことが思い出に残っています。その後、福岡県に引っ越し、大学入学を機に大分へ戻って来ました。大分医科大学を卒業後、大分県立病院、大分大学医学部附属病院、宮崎医院等での勤務を経て、この度、別府リハビリテーションセンターへ赴任することになりました。

別府リハビリテーションセンターでは、医師や看護師、薬剤師、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、ケアワーカー、管理栄養士等、様々な職種でチームを組んで治療に当たります。各職種が患者様との密接な関わりと、その手厚さに驚いています。

皆様のお役に立てる様、日々新たな気持ちで診療に取り組みたいと思います。

～地域連携室の役割～

地域連携室 退院支援看護師

むらやま ようこ
村山 陽子

現在の医療・福祉・介護制度は大変煩雑化しています。地域包括ケアシステムが推進され、医的管理や継続看護の必要な患者さんに対しては、今まで以上に在宅復帰を目指す関わりが求められています。

地域連携室は外部の医療機関や福祉事業所等との窓口であり、患者・家族・関係者の皆さまの医療などに関する総合支援窓口でもあります。

今年度より、退院支援看護師として私が地域連携室へ配属され、職員構成は、精神保健福祉士1名・社会福祉士5名、退院支援看護師1名となりました。

当センター回復期リハビリテーション病棟退院後の後方支援先として、障害者支援施設「にじ」、通所リハビリテーション「ふれあい・みょうばん・あおぞら」への連携業務も行っております。

入院中の患者さんに対しては、社会福祉士は医療チームの一員として、多職種と協働し、必要な支援が途切れることのないよう、また、その専門性を活かし、転院先の選定や生活に必要な社会資源の提案を行うなどのサポートに努めております。

私も、看護師としての経験と専門性を発揮して関係機関との連携強化に努め、病棟での患者の様子をうかがいながらご家族の背景にも目を向け、「寄り添う看護」を実践していきたいと思います。特に退院支援については患者さんやご家族が退院先で安心して生活していただけるよう、入院早期から退院困難要因を抽出し、関係機関と患者さんの情報を共有し、退院に向けた問題解決に取り組みながら、退院支援計画を立てております。

このように、私たちは職種ごとの専門性を活かし、支援が必要な患者さんの生活に反映させていけるよう、サポートを行っておりますので、入院中や退院後に関するご心配事、お困りの事があれば、地域連携室までご連絡ください。



< 地域連携室の主な業務 >

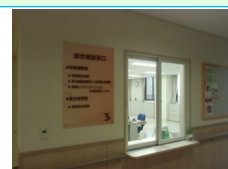
- ・地域医療機関からの入院に関する相談・紹介患者の受け入れ
- ・地域医療機関、関係事業所との連絡・調整
- ・退院支援（転院先・入所施設の紹介、自宅復帰後の在宅療養に関する相談）
- ・介護保険・各種手帳申請など制度寮に関する相談受付や情報提供
- ・医療・介護・福祉に関するさまざまな相談受付や情報提供

など

ご不明な点等ございましたら お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

0977-67-1711 【地域連携室 退院支援担当】



平成29年度

「今年も新しい仲間が入職しました！」

研修の様子を
ご紹介します

この春、今年も当センターに11名の新しい仲間が加わりました。

(看護師3名、介護福祉士2名、理学療法士1名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、管理栄養士1名)

当センターの新採用職員研修は、多職種で行うたくさんのグループワークによって、問題解決を入職時から習慣づけることが特徴です。

今年度も、与えられた様々な課題に力を合わせて取り組む様子が見られました。

1 「社会人」「プロの医療従事者」として！



当センターについての学び、社会人・医療従事者としての接遇・マナー、仕事の進め方など、一人の社会人・プロとしての心構え、基礎固めをしました。

2 チームでの問題解決を体験！



「三人寄れば文殊の知恵」、上司である課長チームも加わり、作戦を立ててペーパータワーをつくるチーム対抗のビジネスゲームでは、他者の上手なやり方も取り入れてより良い結果を出す、という問題解決法を学びました。

他にも研修運営のルール決めや毎日の清掃などから、意見のまとめ方や業務改善の難しさを体験しました。

3 「チーム医療」や「医療倫理」を多職種で考える！



医師をはじめとする各職種の先輩方による講義やグループワークが行われ、「回復期リハビリテーションにおけるチーム医療の在り方と自分の役割」について考えました。

また、各職種がそれぞれ大切にしている倫理を知り、異なる信念を持ちながら協業していくことの難しさについて話し合いました。

4 専門知識・技術を学び、やってみる！



「介護技術」や「摂食嚥下」「排泄ケア」「感染管理」など、認定看護師や福祉用具プランナーなどの資格を持つ先輩職員による講義・実習では、患者役になり実際に食事

介助やおむつ体験などをし、相手の立場に立って考えることを学びました。

5 最終グループワークと決意表明！



最終日には「別府リハ職員に求められるもの」をテーマに最終グループワークを行い、研修を通して得た気づきを全員で共有しました。ワークの結果と共に一人ひとり決意表明を行い、センター長や部長・課長など上司の前で研修の成果を発表しました。

当センターには新人からベテランまで、全ての職員のキャリアアップを支援する教育システムがあります。

新採用職員も1年間、「新人フォローアップシリーズ」と題した多くの専門研修やグループワークを通し、別府リハビリテーションセンター職員として、また専門職としてのひとり立ちを目指して学んでいきます。

成長する新採用職員に、どうぞご期待ください。



お知らせ

専門外来

詳しくは、院内ポスター
もしくは院内スタッフにお尋ねください

農協共済別府リハビリテーションセンターでは、地域での生活支援の一環として、入院でのリハビリテーションを終えた方や脳卒中等の後遺症でお困りの方を対象に、以下の4分野での専門外来をおこなっています。

- 脳血管疾患等リハビリテーション外来
- 高次脳機能外来
- 摂食・嚥下外来
- 装具外来

腰痛と筋膜について

最近“筋膜”という言葉をよく耳にしませんか？

某テレビ番組でも筋膜について紹介され、話題になりました。

筋膜とは簡単に説明すると、筋肉の周りを覆っている膜になります。この膜は身体全体を覆っているため、不良姿勢（猫背等）が続くと、筋膜にも歪みが生じ、腰痛や肩こり等を引き起こしやすくなります。我々理学療法士も臨床で多くの慢性腰痛にお悩みの方に遭遇することから、今回は筋膜と腰痛の関連性とセルフケアについて紹介したいと思います。

足の裏の筋膜は体の後ろのラインの筋膜（足底～後頭部まで）と繋がっているため、腰痛とも関係が深いとされています。我々人類は二足歩行であるが故に足の裏から多くの情報を感知しなければならないため、足の裏には多くの感覚受容器があるとされています。足の裏を含めた足部の破綻（扁平足や外反母趾等）は全身に悪影響を及ぼしかねないのです。では、どのように痛みや歪みを改善していくか。今回は足の裏に着目し、簡単なエクササイズをお伝えします。

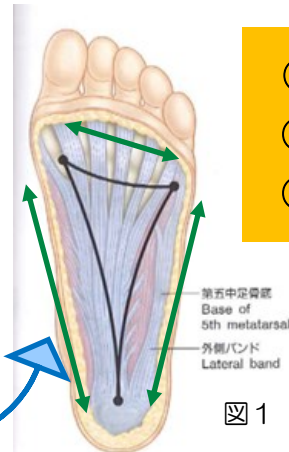
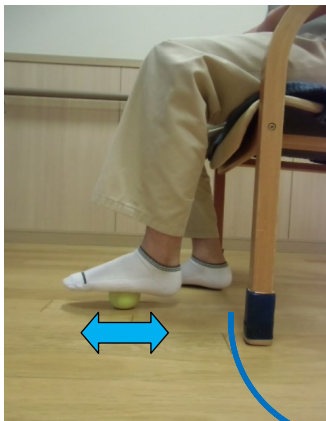


図1

- ①テニスボール（硬式用）を準備します
- ②図1に示すラインに沿って転がします
- ③3分間を目安に左右行ってください

たったこれだけの運動で腰痛が改善される可能性がありますのでぜひお試しください。



充実した病棟生活をめざして



病棟では患者様の余暇時間の充実を図るため、様々なレクリエーションを企画しています。

風船・ボールを使ったスポーツやハンドマッサージなどのリラクゼーション、頭の体操なども実施中です。



どなたでも自由に参加できるような催しを行って、楽しく過ごしていただける空間をめざしています。

七夕・お月見・クリスマスを中心とした行事があり、いつもとは異なる食事や余興を提供しています。



月に1度のカフェでは、音楽を聴きながらコーヒー・紅茶・緑茶の提供をしており、ホッとできる空間をめざしています。



各施設のご案内

- ◇ 病 院
- ◇ 障 害 者 支 援 施 設 < に じ >
- ◇ 相 談 支 援 事 業
- ◇ 障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業 所 < み の り >

- ◇ 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 事 業 所 < ふ れ あ い >
- ◇ み ょ う ば ん ク リ ニ ッ ク
- ◇ 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 事 業 所 < み ょ う ば ん >
- ◇ 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 事 業 所 < あ お そ ら >

発行： 社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

日本医療機能評価機構認定 / 日本脳卒中学会認定研修教育病院 / 日本リハビリテーション医学会認定研修施設



〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10

TEL0977-67-1711 FAX0977-67-1712 <http://www.brc.or.jp>